

インターペット ～人とペットの豊かな暮らしフェア～ 開催される

平成30年3月29日(木)から4月1日(日)までの4日間、東京ビッグサイトにおいて、(一社)ペットフード協会、(一社)日本ペット用品工業会及びメサゴ・メッセフランクフルト(株)主催による「第8回インターペット ～人とペットの豊かな暮らしフェア～」が開催された。22の国と地域から502の出展者を集めた同イベント4日間の来場者は42,066人、犬や猫等のペットも16,455頭が飼い主とともに訪れ、会場は大いに賑わった。

本会として5回目の参加となる今回は、昨年に引き続き、ブース出展、本会主催ステージ企画及びアリーナにおけるキッズ獣医師体験を実施した。以下に概要を報告する。

3月31日(土)には、本会主催のステージ企画とアリーナ企画であるキッズ獣医師体験が行われた。会場内の特設ステージでは、2つの企画が開催された。「大切な家族の一員、高齢動物に向き合う最新の獣医療」では、本会の酒井健夫副会長を座長・進行役として、今後増加すると思われる高齢動物に対する獣医療を紹介し、高度医療を受ける動物のクオリティー・オブ・ライフを考える企画が催された。パネリストとして4名が登壇し、上地正実 JASMINE (ジャスミン) どうぶつ循環器病センター院長からは「人とは違う? 犬猫の老齢期循環器病」、佐藤れえ子 岩手大学小動物病態内科学研究室教授からは「高齢動物の腎臓病」、星野有希 岩手大学小動物外科学研究室准教授からは「腫瘍を知り腫瘍と向き合うために」、北川勝人 日本大学獣医神経病学研究室教授からは「高齢動物の脳神経病に対する取り組み」をテーマに講演され、全員によるパネルディスカッションが行われた。会場の参加者からも盛んに質問がなされ、パネ

リストによる真摯な回答が大変好評であった。

「心のバリアフリー」東京オリンピック・パラリンピックに向けて」では、本会の村中志朗副会長を座長・進行役として、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、オリンピック・パラリンピック選手たちを精神的に支える動物たちの存在を紹介するとともに、「心のバリアフリー」をキーワードとしてよりよい社会の実現について考える企画が開催された。ゲストには元フィギュアスケート選手の安藤美姫氏、障がい者サーフィン選手の藤原智貴氏とご令嬢、藤原氏の介助犬ダイキチ(ラブラドル・レトリバー)、エフエム世田谷のラジオ番組「ペットワンダーランド」のパーソナリティを務める東京都獣医師会理事の小林元郎氏を迎え、楽しく興味深いトークショーが開催された。

「キッズ獣医師体験」では、東京都獣医師会、家庭動物愛護協会及び同協会を通じて犬の派遣をいただいたSJD ドッググルーミングスクールの協力により、子どもたちを対象とした動物診療の模擬体験企画を開催し、85名の参加者が小動物診療獣医師の仕事の雰囲気を感じた。

出展ブースでは、本年12月1日に二子玉川ライズ他で開催される「2018 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」、平成31年2月8～10日に神奈川県において開催予定の「平成30年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会(神奈川)」及び「女性獣医師応援ポータルサイト」に関する展示のほか、日本獣医師会の活動紹介、獣医学教育関係情報の提供、関連グッズの配布を行った。



図1 「大切な家族の一員、高齢動物に向き合う最新の獣医療」ステージの様子



図2 「大切な家族の一員、高齢動物に向き合う最新の獣医療」ステージで進行役を務める酒井副会長



図3 講演する上地正実
JASMINE どうぶつ循環器病センター院長



図4 講演する佐藤れえ子
岩手大学教授



図5 講演する星野有希
岩手大学准教授



図6 講演する北川勝人
日本大学教授



図7 「心のバリアフリー」東京オリンピック・パラリンピックに向けて」ステージの様子



図8 「心のバリアフリー」東京オリンピック・パラリンピックに向けて」ステージで挨拶する村中副会長



図9 村中副会長と対談する元フィギュアスケート選手の安藤美姫氏



図10 村中副会長と対談する障がい者サーフィン選手の藤原智貴氏とご令嬢、介助犬ダイキチ



図11 東京都獣医師会の取組を紹介する小林元郎東京都獣医師会理事



図12 キッズ獣医師体験で犬の健康観察の方法を学ぶ児童



図13 キッズ獣医師体験で犬の心音を聴く児童



図14 キッズ獣医師体験で獣医師の指導を受けて犬の眼を観察する児童



図15 キッズ獣医師体験に協力いただいた東京都獣医師会会員と日本獣医学生協会（JAVS）スタッフ



図16 来場者で賑わう会場の様子